

新城市民病院での4週間の研修は、主に総合診療科を初診で受診した患者さんのファーストタッチをさせていただきました。普段は「緊急性があるかないか」「入院が必要か帰宅させてよいか」「何科にコンサルトすればよいか」などその場しのぎ的な判断だけで終わってしまうことが多いですが、症状がよくなっていく経過を自分でフォローし、症状とは直接関係がなくても医学的に介入できる場所はするなど、総合診療科的な診療が体験できたことがよかったです。また、毎日夕方に振り返りと指導医からのフィードバックがあり、疑問に思ったことやわからなかったことをたくさん聞くことができたのもよかったです。問診で聞くことや、鑑別の仕方など勉強になりました。

毎朝の勉強会や、EBM勉強会、uptodate勉強会など、日頃の診療に実践的に役立つ知識を調べるスキルも教わることでとても有意義でした。日頃から日常臨床で疑問に思ったことは自分で調べて、それを臨床で活かすことが重要だと思いました。

作手診療所と訪問リハビリの見学はそれぞれ2回ずつ行くことができました。作手診療所では、検査・治療体制が全て整っているわけではない環境で、より地元の人々に密着した医療を提供しているところを実際に見ることができました。また、訪問リハビリでは理学療法士の方が自宅でのどのようなリハビリを行うのか見ることができ、勉強になりました。新型コロナウイルスの影響で、他の施設に行くことができなかったのは残念でしたが、地域医療研修ならではの経験ができたことは良かったと思います。

入院患者さんは高齢者が多く、医学的問題点以外に介護の問題や倫理の問題などたくさん問題点を抱えている方が多い印象でした。医学的な治療を行うことはもちろんですが、介護施設とのやりとりや自宅での介護の環境など、退院にむけて解決しなければならない問題は多岐に渡ります。医師だけでなく、看護師、理学療法士、作業療法士、ソーシャルワーカーの方など他職種での関わりがより重要になります。週1回のカンファレンスでは、他職種で集まり、患者さんの問題点を多方面から話し合い、解決にむけて協力し合うところがみられ、コメディカルの方々との関わりも勉強になりました。

4週間という短い間でしたが、ご指導下さった総合診療科の先生方、事務の方、コメディカルの方々などたくさんの方にお世話になり、ありがとうございました。